

World Navi

ワールドナビ Vol. 20
2016 SPRING

Navi
対談

計量こそが国家経済の礎となる——
松本発・計器メーカーが示す技術革新の真髄

東洋計器株式会社 代表取締役社長

公益社団法人 国際経済交流協会 会長

土田 泰秀 × 米田 建三

- 特集 中韓が仕掛けるソメイヨシノの「起源」論争
—— 桜のソフトパワーに着目、反日外交戦の渦中に 風間 進(ジャーナリスト)
- ミュージアムレポート 東洋計量史資料館
文明の礎 計りからみる歴史と意匠 長野 松本で守られている温故知新
- 社団レポート 『春の異業種交流会』を開催
政財界の様々な参加者が“大きな方向性”を共有
- 社団レポート 未来への架け橋としてハンガリーを学ぶ学生の集い



Navi 対談

聞き手

公益社団法人 国際経済交流協会

会長 米田 建三

東洋計器株式会社

代表取締役社長

土田 泰秀

計量こそが国家経済の礎となる—— 松本発・計器メーカーが示す技術革新の真髄

土木技術者から一転、
“お見合い”で現在の会社へ

米田 今年私たちの母校である松本深志高校が創立140周年を迎えます。社長は私より二年下に当たりますよね。

土田 一年と三年で一番頭が上がらない関係です(笑)。

米田 土田社長ご自身は、東洋計器に入社する前は何をされていたんですか。

土田 国家公務員上級職(土木)に受かって、本州四国連絡橋公団に入りました。当時本州と四国の間に橋をかけようとしていて、本州公団が技術屋を集めていたんです。まずは計量経済モデルの開発の仕事をしました。本州架橋をつくると、経済効果がどう変わるかという研究です。

その後、大鳴門橋の設計の仕事をしていたんですが、東京にいたころに見合いというものを見てみたいと思ひまして……鯛萬で食事をするという見合いの話があったんです。

米田 鯛萬といえば全国的に有名な松本のフレンチレストラン……。

土田 それじゃ食べに行つてみようかと言ったのはじまりで、それで土田に婿に行くことになった

んです。役所を辞めて。

米田 お見合い相手が相当魅力的だったのかな。奥様の実家が松本の東洋計器だったわけですね。会社を継ぐ気で結婚した、と。かなりの英断ですよ。本州架橋といえば当時の花形ですから。

土田 土木の世界にはグラビティモデルという経済計量の考え方があるんです。例えば、橋を架けると中国地区と四国地区の間の距離が短くなる。短くなると両地区の経済が活性化します。

二カ所の間を時間距離を分母に置いて、地域経済のポテンシャルを分子に置いて、計算した数字が大きくなれば二カ所間の経済が活性化します。土木というのはその分母を小さくする仕事です。地方で企業を営むということは、経済を活性化させて分子を大きくすることです。

それなら地方に行つて企業の仕事をするのも、土木技術者の仕事も同じじゃないかと、妙な理屈を自分につけて松本に戻りました。

日本水道の源流は松本にあり

米田 今まさに大活躍ですね。この間、工場を視察させていただいたんですが、驚きました。世界企



業ですよ。国家統治の原点として、計量というものが大事だという概括的な知識はありましたけど、認識を新たにしました。計量が正確であればあるほどその国の経済社会に大きな影響を与えるんですね。国産初の水道メーターを、信州松本出身者が開発したそうですね。

土田 桑澤松吉さんという方で、片倉製糸紡績株式会社（後の片倉工業株式会社）に納める機械の機械をつくっていた人なんです。当時松本の片倉製糸は、日本でも

は、枡の板を薄くしたんです。小さく見える。でも、底が深くなっていて容量は大きい。巧妙極まりないですね。

社会の変化に合わせて新しい計量の価値を考えた

米田 図らずも計器の専門企業をお継ぎになったわけですが、東洋計量史資料館（11ページ参照）をおつくりになっているところを拝見すると、社長ご自身が高い次元で、社会インフラとしての度量衡

最優良の会社でした。**米田** 製糸全盛の時代、明治の末の話ですね。

土田 日本で水道メーターといえば、初めは横浜とか神戸の外国人居留地に水道が引かれ、そこに外国製のメーターが設置されていたんです。そんな時代に桑澤さんが機械の技術の転用して水道メーターをつくった。ですから日本の水道の源流は松本にあるんです。

その後、国の命令で満州国、朝鮮総督府に水道・ガスを供給する工場をつくることになって、桑澤さんたちは大陸に渡った。これで一大発展をしたわけですね。そして戦争が終わってほとんど着の身のままの状態に戻ってきて、1949年に水道メーターを松本でつくるようになったんです。

経済発展のために、度量衡の全国均一化は必須だった

米田 日本の近代水道の一番重要な部分を担われてきたということですが、度量衡というのは国家の統治の基本ですよ。

土田 江戸時代の秤を見てください（写真下）。これは江戸中期の物で、携帯用の皿棹秤（はかり）というものの

の重要性についてお考えがあるのではないかと思います。

土田 計量史学会という学会に、私が尊敬する岩田重雄先生という大博士がいたんです。その方に出会ったときに、「計量は文明の母だ」という言葉を授けてくれました。文明は計ることから始まるんだ、と。

それまで単に水道メーターやガスメーターをつくれればいいとは思わなかったんですが、社会が変わっていくと、計量の価値も変わるのだと考えるようになりました。変化に合った計量の価値を私たちはつくっていくなければいけないと、非常に強く感じました。

私が入社したころは、水道メーターは8年経てば必ず替える、ガスメーターは7年経てば必ず替えると言われていました。

米田 必ず傷んできますからね。**土田** そうすると8年経てば必ず需要があるんです。こんないい仕事、ある意味他にないですよ。

逆に需要が安定しているから発展がない。四国で営業所の所長をやっていたころ、ある部下に「この仕事は味噌屋や醤油屋の仕事だ」と言われました。「無くなったら御用を聞きに行くだけで、全然面白くない」と。

です。薬とか金とかお香を量っていたんです。

米田 大事なことは、幕府の統制の下、秤の性能を厳しく監視し、均一であることを保障していた点ですね。

土田 江戸幕府は、秤の製造を「守随家」と「神家」に限って許しました。日本を二つに分け、東33カ国を守随家、西33カ国を神家支配としたのです。これで幕府は秤の統一化を図り、10年に一度「秤改（はかりあらい）」を行って、秤の精度を維持していました。

米田 つまり徳川幕府は国家の安定統治、経済発展のために度量衡の統一が必要だと考えていたわけですね。そんなことを全然考えていない為政者がいっぱいいる国も



言われて頭にきたんですけど、仕事を面白くしないといけないと思ひまして。昭和58年ごろ、イノベーションという言葉が流行っていて、ICやバイオ等いろいろな技術が芽吹いてきたころです。その中で私たちが成し得る技術革新は何だろうと考えたときに、一つはマイコン（マイクロコンピュータ）だと。

もうひとつは電話回線の技術だと思ひました。そこで私が「マイコンで保安、テレメで合理化」というフレーズをつくりました。つまりこれまで計るだけだったメーターにマイコンを付けて、それに人間が危ない状態を覚えさせて、危ないと思ったら遮断して安全を守る。それがマイコンメーターです。

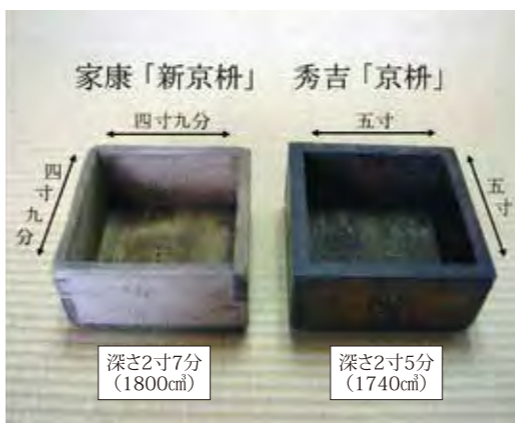
私どもが日本で第一号のLPガス版のセキュリティメーターを開発したんですが、そのシステムはガスが流れているかどうかを、電気の信号でマイコンに送るようになっているんです。そこでその電気の信号を電話に乗せればいいんじゃないかという話になりました。今でいうモデムを開発して、一軒一軒回らなくても、離れたところから計量できるようにしました。これがテレフォンメーター（II

あるわけで、そういう意味では日本も大したものですよ。

土田 日本も豊臣秀吉が国家統一をするまでは、年貢米を量る枡が均一ではなかった。秀吉の時代になり、家康の時代になり、それぞれ全国的に均一化した枡をつくったわけですね。

家康の時代には、ちゃんと3%増税ができるように大きな枡をつくった。例えるならば、国会を通さなくても増税ができるようなもの。こういう点からみても、計量は経済の大原則ですよ。

米田 支配者によって、枡が変わっていったんですね。**土田** 金が足りないので枡を大きくしよう……そうすると一揆が起きるんです。家康が頭がいいの



テレメ)です。**米田** 一軒一軒のガスの残量が少なくなると通報が来れば、大きな合理化ができますね。ユーザーの使いっぷりが全部供給会社に分かるわけですよ。

土田 「テレメで合理化」というのは結局、POS（販売時点の情報管理システム）なんです。コンビニのレジがすべて配送センターにつながっているのと同じです。

新しいガスメーターの開発で新たなユーザーの需要を喚起

米田 そして1993年に水道メーター・LPガスメーター用無線通信システムを確立されました。

土田 最初私たちが残量管理システムをつくったころ、電話は全部黒電話でした。各家庭の電話にモジュラーケーブルを差し込んで、通報するシステム。それができた当時は有頂天になりましたよ。

でも後に通信の大革命が来て。今、黒電話がある家なんてほとんどありません。そこで、移動電話のPHSを応用すれば、人の家の電話を借りなくてもできるんじゃないかと考えました。オール無線と呼ばれるものの始まりです。こ



これは私たちが早い段階で着手しました。

米田 さらに2000年には日本初の用途別に分けて計ることが出来る、ガスのハイブリッドメーターを開発されていますね。用途別とはどういうことですか。

土田 時間ごとのガス消費量のグラフを見て、ポットと短時間に一気にガスを使用しているのはお湯を使ったとき。少ない流量で長時間使っているのは暖房使用時。そういう用途別の使用量が、一つのメーターで分かるんです。(以前は用途に関係なくガスの使用量は一緒にされていた。)

これを使えば、ガスの供給会社が用途別にガスの単価を設定することが出来ます。例えば以前北海

道では、暖房のエネルギーとして灯油が主に使われていました。暖房を使うときに「暖房はたくさんエネルギーを使うので、灯油の方が安いんじゃないかな」と考えるユーザーもいます。

そこで、「暖房用のガスなら3割値段を安くしてあげる。だから灯油からガスに切り替えませんか」と供給会社が言えるわけです。ユーザーのガスに対する需要を増やせることになります。

地元企業をつくれば
さまざまな社会問題を解決できる

米田 これまでそういつたいろんなアイデアを駆使されて、2000年には文部科学大臣賞も受賞されている。大変な努力と工夫をしてこられたのだと思います。「味噌屋・醤油屋」と揶揄されたいわば伝統産業から、技術革新する企業へと脱皮したわけですね。そうすると社内の人材確保や意識革命も一苦勞されたんじゃないですか。

土田 自分が闘いながら前に行く、と、みんなついてくるということですね。それと都市部在住でも、地元に戻って親孝行したいと思っている人材はいます。でも仕事

ないじゃないかという話になる。そこで松本に電機・電子・ソフトの技術を生かせる仕事をつくらうと言って、人材を集めました。

米田 地方の過疎化や衰退は、正に今の政権が直面しているテーマです。日本の都市は人口が多過ぎるから、地方に拠点を移す努力をしなくてはならない。

私はそれを企業の自助努力だけに頼るだけじゃなくて、税制その他インセンティブを徹底的に導入して、本社の拠点を各地につくりやすくするべきだと言ってきました。それをもう昔からおやりになっていたんですね。

土田 自分が故郷に帰ってみたいときに、地元企業というものが非常に大事になってきます。高齢化は進むけど、子どもたちは遠くへ行ってしまう。地元企業をつくれれば、いろんな社会的問題を解決できるのではないかと思います。ずつとやってきました。

発展途上国から見れば
日本は「神の国」

米田 台湾やフィリピン、バンングラディッシュなど、海外の輸出も強化されていますね。海外事業の必要性を感じになって始めたのは

土田 やはりプロだなどと思います。女性ならではの言葉遣いや素振り、いろいろな立場の人に目配りもきくんですね。

米田 社員に自分の会社が何をやっているのかをしっかりと理解してもらおう——そのためには性差なく、若い社員もどんどんプレゼンに参加させるわけです。自分が一体どういう仕事をしているかという自覚になりますし、会社への誇りも生まれてくるでしょう。

業界のリーディングカンパニーとしての人材育成法を伺おうとしていたんですが、まさにその答えになりますね。

土田 たかがメーター、それとメーターという思いでやってきましたが、それを若い社員にも伝えたいと思っています。

米田 ぜひ頑張ってください。今日はありがとうございました。

米田 所得の低い国だと、使った分だけ払えばいいという設備は、住民にとって助かるものでしょう。水道化やガス化というのは近代化の基礎ですね。いくら立派な工場をつくっても、家の水道が不衛生だったり、安全にエネルギーを使えないというのではしょうがない。

土田 やつぱり東南アジアは、日本のような国をつくりたいと思っ

ていると思うんですよ。外国である人に「日本は神の国だ」と言われたことがあるんです。「あんなに恵まれた国はない」と。

米田 日本では水に困らないし、世界で一番安全にガスが使える。これは世界の他の国から見たら、神の国かもしれません。

メーターが高齢者を見守る

米田 安全性も御社の強みの一つですよ。そういう意味で、高齢化社会を睨んでの新規の技術開発、新たな事業展開も進めてい

土田 弊社では2000年に高齢者用の「緊急通報装置」というものを開発しました。水道やガスのメーターが全然動かないとなると、もしかしたら独居老人の方が倒れているかもしれないですね。ですからメーターを生活のセ

ンサーとして使ったらどうかと。それをネットワークでつないで

いて、隣人や離れた家族の元に情報を送れば、優しく見守れるのではないかと考えました。いざというときには誰が出て行くんだという問題が出てきて、今、長野県では幾つかのタクシー会社と提携

しています。タクシー会社の人に警備法の関連資格を取ってもらって、何かが起こったときには、タクシーの運転手に現地に行っただけというシステムです。

米田 それもまた企業活動の結果として地域貢献されているわけですが、今後他に何か地域社会発展のために御社がやろうとしていることはありますか。

いつごろですか。

土田 約7〜8年前です。結局日本は人口が減っていきます。国内では、水道メーターやガスメーターの付加価値を高めて市場を広げていくしかない。一方では国がインフラ輸出を進めています。インフラといえば原発や高速道路のイメージもありますが、水やガスが欲しいというのは非常に優先順位が高いわけです。水道メーター・ガスメーターの需要も出てくる。そういうことで力を入れ始めました。

例えばフィリピンに大きな台風が来て、水道の多くが流されて、それを日本のODA資金で復興させていく際に、お手伝いさせていただったりしました。

また、バンングラディッシュには、プリペイドで料金を支払う新しいメーターを検討しています。まだガスのインフラが整っていない国では、ボンベでやり取りをするわけです。ボンベでやり取りすると、一度に高額のお金が必要になります。でも私たちが考えたプリペイドのメーターを使えば、先に3000円だけ払って、3000円分だけ使うということが出来ます。これもODAの仕事の範疇ですね。



Vol.20 対談者 PROFILE



1949年長野県生まれ。県立松本深志高等学校卒業。国家公務員上級職(士)合格。73年、本州四国連絡橋公団入社。78年、東洋計器株式会社入社。80年、同社取締役社長室長就任。98年、同社代表取締役社長就任(現任)。98年、14年迄、長野県計量連合会(現・長野県計量協会)会長。98年、一般社団法人日本計量器機工業連合会理事。00年、長野県中小企業団体中央会理事。01年、一般社団法人日本計量振興会理事。04年、日本液化石油ガス協議会副会長。



1947年長野県生まれ。県立松本深志高等学校卒業。横浜市立大学商学部経済学科卒業後、出版社勤務。87年、横浜市議員に当選し、93年に衆議院議員に初当選。以降3期連続当選。北海道開発総務次官、防衛庁政務官などを歴任し、内閣内閣では、内閣府副大臣を務めた。帝京平成大学教授を歴任後、10年5月に国際経済交流協会代表理事に就任。15年2月に同協会会長に就任。TV・雑誌等メディアでも活躍している。

公益社団法人国際経済交流協会 会長 **米田 建三** ヨネダケンゾウ

東洋計量史資料館

文明の礎 計りからみる歴史と意匠 長野 松本で守られている温故知新

国宝・松本城に代表される長野県松本市に、日本を代表する貴重な文化遺産を後世に伝えようとしている注目すべきミュージアムがある。それが「東洋計量史資料館」である。

ここは国内最大級の「計り」の資料館である。さまざまな用途や形状の物差しや重量計が収められており、展示品を含めた所蔵品は約1万2千点。歴史的価値のある

ものから意匠を凝らしたもので、類を見ない規模で一度に見ることが出来る。

この資料館は水道・ガスメーターを製造する東洋計器株式会社により2014年11月にオープン。館長を務める土田泰秀代表取締役社長は「モノがなくなること、技術がなくなること」との思いから、05年2月に閉館した「は

かり資料館」(兵庫県尼崎市)や14年3月に閉館した「秤乃館」(三重県四日市市)から引き継いだ貴重な資料の公開とともに維持・管理に務めている。

そして、この資料館を運営している東洋計器はメーターメーカーとして革新的な新技術を開発し続けている。

古きを守り、新しきを生み出す姿勢はまさに温故知新である。

展示はいくつかのテーマに分かれているが、メインとなるのは「度量衡の間」で、ここでは長さをはかる「度」、容積をはかる「量」、重さをはかる「衡」に分けて展示されている。

時代の転換期を象徴する尺とメートルを同時に計れる物差しや日本最古の針口天秤や京枰など歴史的価値の高い資料が揃っている。

そのほか「海外の間」ではアジア、ヨーロッパ等の秤が並び、「重量計の間」「大型の間」では明治から昭和にかけて使用されていた台秤や体重計、牛馬掛秤といった大型の秤等を中心に展示している。

また松本の産業の歴史でもある蚕糸業に関する展示もあり、シルクの等級を決める際に「はかり」が重要な役割を果たしていたこと

を知ることが出来る。

計量制度は貨幣制度と並び、経済活動の根幹をなすものであり、さまざまなものを計ろうとした先人の知恵と工夫に触れてもらいたい。

「文明は計ることから始まった」とは、日本計量史学会創始者の一人、岩田重雄博士の言葉。

(本誌取材班)



土田泰秀 館長(東洋計器株式会社 代表取締役社長) (右) と協会の 米田建三 会長 (左)



東洋計量史資料館 外観



第2展示室全体



携帯用皿秤パネル展示

東洋計量史資料館(予約制)

〒390-0813

長野県松本市理橋1-9-18

開館時間: 10:00~16:00(最終入館15:30)

休館日: 月曜日、年末年始

(月曜日が祝日の場合は開館)

入館料: 大人(高校生以上)500円

小人(小・中学生)200円

駐車場完備

お問い合わせ: TEL.0263-48-1121(東洋計器株式会社)

『春の異業種交流会』を開催 政財界の様々な参加者が『大きな方向性』を共有

始まりはアメリカ大統領選で話題の『あの人』の話から
平成28年3月3日、公益社団法人国際経済交流協会の主催により、『広げよう人間ネットワーク』『春の異業種交流会』が開催された。政界の方々、そして幅広いジャ



特別講演 講師 逢沢一郎 衆議院議員

ンの企業の代表者を中心に、合わせて150名以上の参加者が連なった。

会の第一部は「一億総活躍社会への実現に向けたプロセス」というテーマで、逢沢一郎衆議院議員の特別講演が行われた。講演の前には、当協会の米田会長が開会の挨拶に立ち、参加者への謝辞を述べるとともに、国内外の政治的な状況について語った。

「今アメリカの大統領選挙が面白いですね。トランプ氏は貿易問題について同盟国を批判していますが、私は彼が当選したらすごいことになるだろうと思っています。まだ彼が気付いていないことがあります。安倍内閣で安民法案が成立しましたが、まだわが国の安全保障は本質的には変わっていません。自国の領域へ敵が押し寄せてきたら自衛隊が戦うが、明らかに敵が来るのが分かっています。一定の海里より向こうの場合も、一定の海里より向こうの場合も、黙って見ている。代わりにアメリカにやっってもらおうと。ただ単にやっってもらおうと悪いから、後方支

援をしますという仕組みですね。その後方支援も、医薬品は運ぶという話になっています。トランプ氏がこの仕組みに気付いたら、『ふざけるんじゃない、なんでアメリカの青年が先に死ぬんだ』という演説をする可能性もあります。もしかしたら日本人全体が、日本の安保体制のいびつさを知る良いきっかけになるのかもしれない

「同盟国で起こっている選挙戦に憂慮しつつ、米田会長はこの交流会の目的が、時代の流れや状況をより正確に把握して、参加者それぞれの経済・社会活動に寄与させていって点にあるという旨を語った。続いて特別講演講師である逢沢一郎衆議院議員が登壇した。

講演では経営者に向けた『熱いメッセージも贈られた』
逢沢氏も講演の冒頭において世界情勢に触れ、ASEAN、その

大使館エルドシュ・アッティラ公使参事官、セルビア共和国大使館アナ・コンティッチ参事官が挨拶。

さらに小野克典桶川市長、新井金作上尾市議会議員、細川英俊鴻巣市議会議員と、埼玉県の政治家3人から挨拶があり、それぞれ地元をアピールする声がかかれた。

再び歓談が続く。約2時間に及んだ交流会は、当協会田邊利雄専務理事の挨拶で締めくくられた。

政財界、様々な立場の人々が集まった新春の夜は、和やかでいて活気的なムードのまま幕を閉じた。

(国際経済交流協会事務局)

てまいりたいと思っています」
逢沢氏の講演はさらに、参加している経営者に語りかけるかのような話題が続いた。
「会場の中にも、いわゆる『ものづくり補助金』をうまく申請して活用している方がいらっしやるだろうと想定いたしますが、このものづくり補助金、非常に便利な制度設計をさせていただきました。ものづくりといえばイコール製造業になるわけですが、小売り・流通・サービスなどといった方面の方々にも都合よく使っていたら、そういう仕組みに切り替えました。ぜひ経産省のホームページをご覧になって、最寄りの商工会に相談して有効にご活用してください」
「最近金融庁の人間が『どれだけリスクマネーを供給できるかに、われわれの仕事の中心がシフトしている』と言っています。つまりそれぞれの地域で優秀な経営者や、技術を持った中小企業を資金的に支えていく。本来金融機関はそうあるべきですよ。本当に必要な人のお金が届くように、しっかりと政策的にフォローアップしてまいりたいと思います」
「また、マイナス金利政策の状況下で、ローンの借り換え等もいろんなプログラムが提示されてま

講演会が終わり、参加者は皆、立食パーティーの席へ。第二部の交流会が来賓の自己紹介から始まった。
「逢沢先生は10期であります。私はまだ新米の2期生です」とフレッシュさを強調した長尾敬衆議院議員。「政治家だけではなく、民間の大きな力が相まって、わが国をつくっていくと確信しています」と参加者に団結を呼びかけていた。続いて登壇したのは吉田六左工門元衆議院議員。
「人手不足は、ITによって1人で3人分の仕事ができるように補っていくという方向性でやっています」。公益財団法人日本建設情報技術センターの代表理事として元気に活躍されている姿を見せた。
ここで当協会鈴木丈真代表理事から乾杯の挨拶と発声があり、しばし参加者の間で歓談の声が弾んだ。その後、来賓としてハンガリー



講演会風景



懇親会での挨拶 公益社団法人国際経済交流協会 鈴木 丈真 代表理事



公益社団法人国際経済交流協会 米田 建三 会長

未来への架け橋として ハンガリーを学ぶ学生の集い

平成28年2月23日、駐日ハンガリー大使館にて「ハンガリーを学ぶ学生の集い」が、これからの未

来を担う日本の大学生17名を迎えて催された。



会場風景



米田 建三 当協会 会長



セルダヘイ 特命全権大使

冒頭の挨拶では当協会 米田建三会長より近年の日本とハンガリーの縁が深まったエピソードを披露。また日本とハンガリーの共通点や自由化以降のハンガリーの目覚ましい発展、米田会長が何度もハンガリーへ訪れ、肌で感じた文化・教養の高さにも触れた。そして「これを機会にハンガリーに興味を持ち、日本との友好を考え、継続してもらいたい」と結んだ。

続けてイシュトバーン・セルダヘイ駐日ハンガリー大使館特命全権大使より国家間の問題解決や協力体制の構築における国際親善の大切さを伝えたいと挨拶。

今回集まった学生は古川直季横浜市会議員のもとで勉強会に参加している学生がメインだったこともあり、古川議員からお礼の挨拶が述べられた。



古川 直季 横浜市議員



司会進行 田邊 利雄 当協会 専務理事

己紹介をしつつ、ハンガリーへの興味を述べ、それを受けてセルダヘイ駐日大使がハンガリーのことを分かりやすくユーモアを交えて紹介してくれた。

話題は政治や経済だけでなく、音楽やサッカー、自然、食文化と多岐にわたった。

なかでもハンガリーは多くのノーベル賞受賞者を輩出している発明国ですが、「ルービックキューブ」もハンガリー発祥であり、日本に負けないほどの温泉国であったりと身近に感じるエピソードも溢れていた。

その後、場所を移して駐日ハン



鈴木 丈真 当協会 代表理事 挨拶

ガリー大使館より豪華なハンガリー料理が振る舞われた。

その皮切りに当協会 鈴木丈真代表理事の乾杯の挨拶で日本とハンガリーの友好と当協会の国際親善への取り組みを紹介した。

そして学生と大使館職員が中心となつて、美味しいハンガリー料理とともに有意義な時間を過ごした。

最後に学生代表として一橋大学4年生 荒井大樹さんからのお礼の言葉をもちて締めくくられた。

あつという間の時間で誰もが名残り惜しんでいたが、この続きは将来、学生たちが国際舞台で花を咲かせることに期待したい。

(国際経済交流協会事務局)



一橋大学4年生 荒井 大樹さん

【三浦半島 長井町】

豊かな漁場を守り、近海だからこそその新鮮な海産物を届けます



自然豊かな三浦半島は東京湾と相模湾の境界に位置し、三崎のまぐろや佐島のタコが全国的に有名です。しかし三浦の本当の魅力は東京や横浜といった大都市圏に近接しながら、新鮮な地魚が一年を通して水揚げされる



旬を迎えます。もちろんシラスやサザエなども外せません。しかし近年は地方港にありがちな人離れや設備の老朽化に見舞われ、活気が失われつつあり



井港のさらなる飛躍のため、新たに長井定置網株式会社を設立し、大型定置網を亀城灯台沖に設置。長井町漁業協同組合の正組合員として環境に優しい漁法で安定した漁獲量を目指します。

「亀城」で船玉様祈禱・進水祭・餅まきが行われ、関係者だけでなく地元の人々も交えて大いに盛り上がりました。その後の祝賀会では政治家や歌手、俳優などの著名人も駆け付けて花を添えてくれました。

長井定置網株式会社
〒390-0813
神奈川県横須賀市長井5-23-3
TEL. & FAX.: 046-874-7732

寸鉄

安保法制を「戦争法」と決め付ける愚かさ

米田建三

現生人類は、約10万年前に150人ほどの集団がアフリカを出発し、世界中に広がった。歴史の途上では、世界中でわずかに千人ほどに人口が減り、絶滅の危機に陥ったこともある。DNA分析などの科学的進歩の結果、解き明かされた驚くべき事実である。

すれば、そんなセリフが出てくるはずがない。嗚呼、私もこんなこと何十年も言い続けて嫌になったが、のちの世代のためにやはりひとこと。第二次大戦後の国際ルール(国連憲章、国際諸条約)は、侵略戦争不可。自衛権行使(個別、集団とも)。自衛権行使は必要性に基づくものであり、その地域、質量に制限はない。

edo-essay 江戸のあれこれ
江戸散策家:高橋達郎

信州諏訪の奇祭、御柱祭

おんぼしらさい



「木落し」本宮一の柱

奇祭と称されるだけあって、確かに変わっている祭りである。七年に一度、八ヶ岳山中から巨木を切り出して、二十数キロも綱を付けて引きずり上げて、神社に建てるという祭り。その大木を「御柱(おんぼしら・みはしら)」といい、祭り自体も総称して「おんぼしら」と地元では呼んでいる。

南シナ海をめぐる、日本は米国やフィリピン、ベトナムなどと安全保障協力を進めています。中国は激しく反発しています。

日本の行動が取るに足らないものであれば中国は無視するだけです。反発していることは、日本の南シナ海への積極関与が中国の覇権主義を阻む方向に作用していることを意味します。安倍晋三政権には自信をもって今の政策を推進してほしいと思います。

中国は南シナ海の南沙（スプラトリー）諸島で、複数の暗礁を埋め立てて人工島とし、国際法を無視して領土と強弁して軍事拠点化を進めています。米海軍は昨秋以降、中国による領土化を認めないための「航行の自由作戦」を実施していますが、中国が思い止まる様子はありません。

それどころか、3月上旬、南シナ海で米空母艦隊はかつてない数の中国海軍艦船に囲まれたと報じられました。

このような情勢の下、日本は「航行の自由作戦」を支持しています。南シナ海の島々の領有をめぐる中国と対立するフィリピンやベトナムなどの安全保障協力も進めています。

南シナ海に面するフィリピンのスービック湾に海上自衛隊の潜水艦が寄港しました。フィリピンは航空戦力が弱いため、南沙諸島の中国の動きを見る哨戒機として、海自が使っていた

TC-90練習機を貸与する方針です。

昨年は、海自の護衛艦やP-3C哨戒機がフィリピン軍と南シナ海で救難訓練などを行いました。巡視船も援助することになっています。

ベトナムとの関係も深めています。海自のアフリカ・ソマリア沖の海賊対処部隊の艦船やP-3C哨戒機が、南シナ海を通過する際、ベトナムに寄港、飛来して、ベトナム軍との交流を始めています。ベトナムにも巡視船の援助をしています。

さらに、海自と米海軍は、南シナ海で何度も艦隊行動などの共同演習を実施しています。

これに対し、中国の程永華駐日大使は、3月10日付の中国英字紙上で「日本は南シナ海で緊張を高めるべきではない」と反発しました。

中国外務省の洪磊報道官も3月7日、海自潜水艦のフィリピン寄港について「日本は第2次大戦中に中国の南沙諸島を不法に占領した。日本が軍事面で南シナ海に戻るくらゐを高度に警戒している」と述べました。

あまり知られていませんが、日本は戦前、戦中に南沙諸島（当時は新南群島と呼称）を領有していました。大東亜戦争に敗れ、サンフランシスコ平和条約で放棄させられたのです。日本は戦争中に占領したわけではなく、日本の島々だったのですから、洪報道官の

発言は言いがかりもいろいろです。

現代日本は南沙諸島の領有を求めるつもりはありません。日本が今、南シナ海をめぐる中国の「力による現状変更」の動きを批判し、フィリピンやベトナムと協力するのは、南シナ海が「自由で平和な海」であってほしいからです。それが国際法が尊重される世界を守り、日本の利益を保つことになります。

南シナ海は、日本などへ石油・天然ガスを運ぶ世界有数のシーレーンです。自由貿易体制を含む世界の秩序を支える米第7艦隊の日本と東南アジア・インド洋・中東方面への主要交通路でもあります。

シーレーンとして南シナ海を使わず、フィリピン東方海域へ迂回すればよいという意見がありますが、愚論です。輸送費的には成り立つかもしれませんが、中国へ引き渡すということは、フィリピンの対中屈服を意味します。中国海空軍の力はフィリピン東方海域へも広がってしまうのです。迂回路の安全は保障されません。

南シナ海を中国覇権主義が支配すれば、日本などのアジア諸国や米国の安全と繁栄はひどく損なわれます。南シナ海を「自由で平和な海」に戻すために日本が力を尽すのは当然なのです。

産経新聞社論説委員 榊原 智

榊原 智(さかきばら・さとし) 産経新聞社論説委員(政治、安全保障担当)。防衛省防衛人事審議会委員。昭和40年愛知県生まれ。東京大学文学部国史学科卒。防衛大学校総合安全保障研究科(修士課程)卒。

直言

最近、薬物や貧困、孤独などが引き金となる事件・事故のニュースを目にしますが、背景に社会的空白が見え隠れします。

もちろん政治や行政からボランティアの方々まで地道な活動をしてくれています。それでも全ての空白が埋められるわけではありませんが、少しでも健全な社会に近づいてくれればと思います。

そして、こうした問題解決への社会貢献の方法にも変化が見られます。

たとえば寄付も街頭やメディアの呼びかけに反射的に行うのではなく、自分の思いを具現化している団体を自分で見極め、直接寄付する流れが生まれつつあります。

また社会課題の解決を目的にしたソーシャルビジネスも経済産業省の推進により少しずつ芽吹き始めています。

今後、こうした機運が広がることを願わずにはいられません。



公益社団法人
国際経済交流協会
代表理事
鈴木 丈真